

1. 【研究の概要図】

この応募用紙に記載する研究の概要を1頁以内で図式や分かりやすい色を用い、概要図を作成してください。

※様式の変更・追加は不可（以下同様）

研究課題名：天明歌舞伎と勝川派の役者絵

【研究背景】

△ 歌舞伎研究の課題

歌舞伎には元禄・天明・文化文政の3つの隆盛期があり、江戸中期の天明歌舞伎は歌舞伎全盛期とされる。

☹ 天明歌舞伎研究の不足

当期の実態を明確に捉えなければ
通史的歌舞伎研究は不可能。

☹ 絵画を用いた歌舞伎研究の未達成

歌舞伎の様態は「文字」に加え「絵画」でも届けられたが
「絵画」を手掛かりに天明歌舞伎に迫った研究は未達成。

△ 勝川派役者絵の活用を阻む課題

天明歌舞伎の「絵画」を担った勝川派の役者絵は、視覚的要素の強い歌舞伎の表現を捉えることが出来る、歌舞伎研究の有用な新資料基盤となる見込みがある。

☹ 収集の不足

約30年前の『The Actor's Image』で
研究は滞留し、専門家と呼べる
研究者もいない。

☹ 研究・研究者の不足

最も情報量の多い図録で876点。
立命館大学アート・リサーチセンターの浮世絵データベースでも約1万点。
実際には、この3倍は世界に散在すると推定され、収集数は全く足りない。

→天明期の絵画を活用しなければ視覚的要素の強い歌舞伎の実態を明確に捉えることは困難

→歌舞伎研究のみならず、浮世絵研究、延いては日本近世文学全体の通時的研究に空白

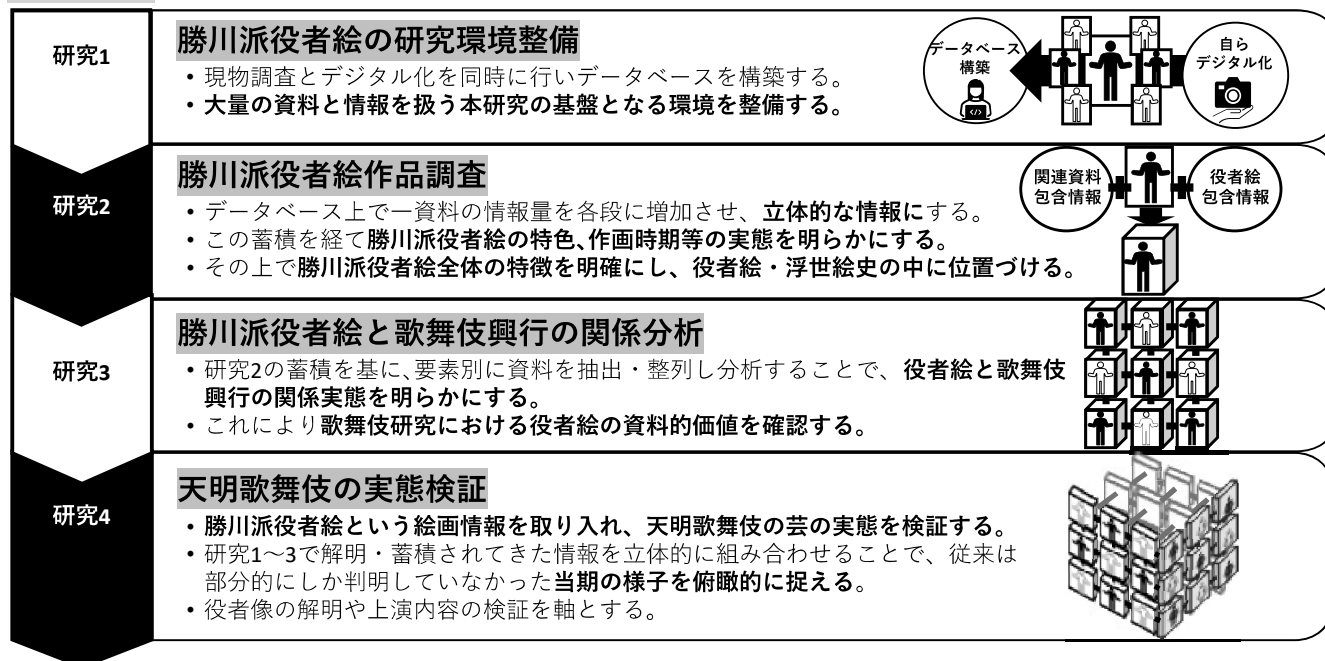
【今後の研究】

研究の目的：天明歌舞伎の芸の実態を明らかにする

研究の方法：天明歌舞伎の実態検証資料として、文字情報に加え、役者絵という絵画情報を取り入れる。

この実現のため、デジタル技術を最大限に活用し、勝川派役者絵の研究環境を整備する。

研究の内容：以下の4点に取り組む。



【研究の特色・独創的な点】

- 30年ぶりの包括的勝川派研究であり「絵画」をも手掛かりに天明歌舞伎の本質に迫った初めての研究となる。
- 大量・高速でありながら精細と俯瞰を両立できるデジタルヒューマニティーズ手法を取り入れることで、冊子体では出来なかった情報付与と整理、分析を可能にする。
- この成果により歌舞伎史・浮世絵史・近世文学等における天明期の空白が埋められ、各学界における通時的研究の大いなる促進が期待できる。